

CARNAVAL 2006

翼です！日本はそろそろ春ですね！こちらは carnaval が終わって、相変わらずの忙しい仕事の日々に戻っています。さて、改めて大きな報告があります。僕の所属する Império de Casa Verde (インペリオ・チ・カザ・ヴェルチ) が昨年に続き São Paulo, carnaval 2006 でチャンピオンとなりました。2年連続の優勝です。僕は Mestre Sala として無事役割を果たすことができました。目的としていたポジションを手に入れるだけでなく、こうして優勝という場にいられて、言い尽くせない幸せを感じています。優勝が決まった時の冷め止まぬ気持ち、その余韻もまだまだ残っていますが、今回は carnaval 当日のことをお話したいと思います。



日中

Império のパレードは 2 月 24 日 (金) の深夜からでしたので、実際には平日の夜中という形になりました。職場の日本語学校側からも、この日は仕事を休んで家でゆっくりすることを勧めてもらっていましたが、ブラジルには仕事をしに来ているという頑ななこだわりがあったため (意地張っているだけ) 日中はいつも通り子ども達に日本語を教えていました。仕事の終わるちょうど 18 時ぐらいに、衣装が仕上がったという電話が入り (本当は 2、3 日前には出来ているはずだったのに...) その足でアトリエまで行き衣装をピックアップ。衣装を着て踊るのは 1 年半ぶりだったので、アパートの下にある広場で試してみることに。同アパートの住民から興味津々な眼差しを受けつつ、衣装の重さ、幅、風を受ける程度などを確認し、とても踊りやすいと思っていたところ、そこで幸運か不運か思わぬアクシデントが...。いつものようにステップを踏みながら視線を上げた瞬間、突然目の前が...地面だったんです。最初は何が起こったのかさっぱりわからなかったのだけれど、要するにぱったり転んでしまったんです。ブーツが合わなくて、ひっかかってしまったのが原因だったのですが、足に怪我をしたものの、本番で絶対に繰り返さない対策と意識を改めることができました。いやはや、やっぱり何事も試してみることが大切なんです。それにしてもさすがに焦りました。もちろん Império の人には誰にもこのエピソードを伝えていません。

QUADRA 集合

基本的にはどの escola も quadra からバス数十台から百台を使って sambódromo へ向かいます。Império の場合は quadra へ 22 時に集合だったのですが、時間のない国ブラジル、いつものように一向に集まらず。そのため来客用のソファで仮眠していたところ、今後は何だか急がないといけない雰囲気になり、衣装と共にバタバタと M.S./P.B. 専用のバスへ乗り込みました。結局、出発しないバスの中でその後 1 時間以上待たされたわけですが、そこでの人間模様が面白くて、飽きることなくリラックスしていました。写真撮影をして遊んでいたたり、Império の samba enredo を陽気に歌いまくっている人がいると思えば、僕の P.B. Katia は神経質になっていて、うるさそうにイライラと眉間に皺を寄せているし、かといえ他の P.B. (僕は「不良系ポルタ」と命名していますが) は、煙草を吹かしながら大股広げて世間話しているし、1 人の M.S. は狭い座席で小さくなって寝ているし...。diretor の人はピリピリしながら携帯電話で何らかのやりとりをしている。僕はというと、この日を 1 年間待ち続けてきたのは確かなのですが、緊張とか溢れる気持ちとかそういうものが全くなく、運転席に座って遊んでみたり、呑気に人間観察をしていました。実感がなかったのだと思います。とにかく、それぞれの人生を持つ人間が、それぞれの気持ちや姿勢で 1 年に 1 度のこの日を迎えているのだと思いました。

SAMBÓDROMO 到着

sambódromo に 2 時半頃バスが到着し、会場近くのスペースで衣装の着替えに取りかかりました。僕の衣装は全身スパッツのようなものに色々付け足していくタイプ。メイクもしないし 5 分もあれば着替えられる軽いものでしたので、samba enredo を鼻歌でルンルンしながら他の M.S./P.B. の手伝い。確実に緊張感がない...。それとも緊張を隠すための無意識の反応だったんでしょうか...。とにかく、余計なストレスを



抱えることなく人生で最高の日を迎えることができていたのは確かです。そしてもう4時近くだったでしょうか。全員が着替え終わったところで、いざ avenida (大通り：パレードコース) へ。M.S./P.B. は ala の間に入らず avenida 入り口の門前に待機をします。ところがそこに着いた時にはすでに esquentar (パレード前の盛り上げのようなもの) が始まっているじゃあないですか。「えっ!?えっ!?何!?もう始まっているの!?!」と愕然…。でも、さすがにそこで実感が湧いてきましたね。『Samba Caçula』『Hino』『Samba Exaltação』と呼ばれる Império が ensaio の前にも必ず歌う賛歌に続き、puxador の掛け声。夢に見ていた光景が目の前にありました。

AVENIDA の光の中へ

ついに samba enredo のメロディーが…。 “É lindo ver o meu Império, um show de cores ao luar, cantando para o mundo inteiro a saga desse gado brasileiro…” こんなはずではなかったのだけれど、こんなに強い気持ちが溢れてくるとは思わなかったのだけれど…。歌えば歌うほど涙がこぼれてきました。

夜空が明るい光の膜に覆われながらゆっくりと瞬いていて、あれは何だろう? って空を眺めると、自分の意識が今この瞬間から過去へ過去へと遡っていく気がしました。さっきまでのこと、carnaval を目前にしたこの数週間のこと、ensaio を重ねたこの数ヶ月のこと、Império の comunidade に受け入れられたときのこと、そのために無我夢中にチャンスを追いかけていたこと、ブラジルに着いたときの期待と不安…。Liberdade の大好きなみんなに囲まれていたときのこと、典恵と M.S./P.B. を始めたときのこと、samba をはじめたときのこと…。子どもの頃サッカー選手を夢見ていたときの自分…。これまで出会った人たち一人一人の顔が浮かんでいました。すべてが連なりであり道であって何一つ誰一つ欠けることができない自分のこれまでの人生。くっきりと「いまここ」に自分がいるということを認識し、「生きていて本当によかった!!!」と何の迷いもなく納得する。そして Império の comunidade そのものに溶け込み一体となる感覚に包まれていました。「ああ、俺のすべきことはもう決まっているんだな…」って。目の前を通過していく先陣の ala や alegoria を眺めながら、どうやら号泣していたらしいんです。Katia に涙をぬぐわれ、まじないをかけてもらい、我に返ったところで、僕達の踊るスペースへ。目の前に光輝く avenida が広がっていました。そして…、光の中へ足を一歩踏み入れました。

どんな世界だったのでしょうか。眩し過ぎて、世界が輝きそのもののように感じられて、自分の意識というものが薄らいでいたようにも、研ぎ澄まされていたようにも思えます。そして、この光の世界で僕は samba の神様を見ることができたのでしょうか。それは「ひみつ」としておきましょう。



CARNAVAL の終わり

最後の alegoria がゴールし、門が閉められても音楽は続いていました。空に朝靄が満ち始め、美しく明るい光がすべての終わりと始まりを告げているようでした。放心する間もなくバスに乗り込み早々と帰路へ向かいましたが、次の escola をテレビで見られるほど早く家についてしまいました。テレビに映っている avenida がさっきまで自分のいた avenida とは全く違うものに見え、何も考えずにテレビの映像を眺めていました。そして深い深い眠りにつきました。

この場を借りて心からの感謝の気持ちを伝えさせてください。Liberdade の存在そのものが僕を支えてきました。親愛なる皆様、本当にありがとうございました。 翼